

いつのまにやら
百万遍へ

ワタナベ

私の木彫作品には鑿（ノミ）は用いていません。

簡単な形を決めた後、チェーンソーなどで大まかに形を作った後に、リューター（よく歯科医が歯を削るのに用いている工具）を使い、木目と相談しながら制作しています。

この「木目と相談」といのは正しいような間違っている様な表現であり、

木に操られる

自分を無くす

我が消える

トランス状態

と、あれこれ言ってみても正しいような違うようなといったトコです。

この言葉にならない感覚だけは、作るモノだけの役得だと思えます。

自分は制作しているのか、木の中から作品を発掘しているのか分からなくなる位で日々彫刻しております。

それでは少しですが写真で作品を御覧ください。



凹顔面 W270×D250×H400mm



俺だって権現 W300×D270×H400mm



猿の名残り W250×D200×H340mm



幽世の探検 W500×D200×H550mm



尾長鶏の乗る袖長衣を着た髭長翁 W350×D350×H1400mm



稀人の鼎談 (各) W300×D200×H600mm



立てる人型の憑代 W160×D70×H400mm



彼の地へ跳ねる W220×D70×H110mm



妙心を思う W240×D200×H330mm



立てる人型の憑代 W300×D220×H820mm

